

JA共済連と早稲田大学が共同で開講している寄附講座が 3年目を迎えました

～ 東北の震災復興から、持続可能な社会システムの設計をめざして ～

2014年3月26日

2012年度より、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(以下 WAVOC)と、JA共済連(全国共済農業協同組合連合会)は、三陸沿岸地域の震災復興へのアプローチと農村の社会経済をテーマとする寄附講座を開講してきました。2014年度は、半期の講義科目のほか、フィールドリサーチにより東北の中長期の課題を相対化して捉えることを目指した実習型科目を通年で開講します。

1 本講座開講の意義(早稲田大学)

農山村に興味を持つ学生は少なくありませんが、早稲田大学では、農山村地域について体系的・実践的に学ぶ機会が限られていました。そこで、本講座によって学生の知識欲求に応え、震災の影響を受けた農山村地域の諸問題について考える機会を提供します。また、学生が被災地に赴き、机上の学習だけではなく実際に現地で地元の方々と共に考え協働することで、課題発見と対応、発信に取り組む機会とします。

2 本講座開講の意義(JA共済連)

2012年4月に、早稲田大学の学生が、「震災復興」や「農山村社会」を通じて、「絆」や「助け合い」の重要性を学べるよう、本寄附講座を開講し、多くの学生に受講いただき、また学生が赴いた被災地の方々から高い評価をいただきました。

3年目を迎えた本年度において、講義科目は農山村社会を、新たに農産物貿易と6次産業化、再生可能エネルギーなどとあわせて学ぶ機会を提供いたします。

また、実習型科目は「①座学+②気仙沼・田野畑での現地フィールドワーク・交流+③提案作成+④体験の言語化」を通年で実施することとし、より一層学生の問題意識や知識欲求に応える内容といたしました。本講座を通じて、農業・農山村が抱える諸課題や被災地の現状について、学生の理解がすすむことを期待しております。

3 講義概要

(1) 講座名: JA共済寄附講座 農村地域の経済と社会を見る目

期 間: 2014年4月～2014年9月

講座内容: ①農山村社会の成り立ち ②農産物貿易問題 ③農業政策の展開と現状 ④様々な農村の姿 ⑤農村と女性 ⑥JAおよびJA共済の役割 ⑦再生可能エネルギー ⑧震災復興などを学びます。

(2) 講座名: JA共済寄附講座 震災復興のまちづくりー持続可能な東北の未来ー

期 間: 2014年4月～2015年3月

講座内容: 東日本大震災から4年目、復興は未だ途上にありますが、長期的な社会システムの設計が課題になっています。本講座では、「持続可能な東北の未来」について学生の視点で独自の提案をおこないます。岩手県田野畑村と宮城県気仙沼市の2つの地域へ各1回、そして自分が選択したどちらかの地域を再訪し、合計3回のフィールドワークをおこないます。「新しい地域副読本・コミュニティガイド(田野畑)」「スローシティ気仙沼 コンセプトブック」を制作し、早稲田大学周辺商店連合会・気仙沼市との共催イベント「早稲田かつお祭り」(東京・早稲田)(9月下旬～10月中旬予定)に参加しながら情報発信する予定です。

以 上